

いじめについての授業

令和2年6月

八幡小学校でめざす子は、「いじめや差別をしないやさしい子」です。そんな八幡っ子になるために今日は、みなさんと「いじめ や 差別」について勉強したいと思います。

今日の授業のめあては、

- ・いじめや差別について確かめよう
- ・よく聞いて考えよう
- ・友だちの考えを聞こう

です。さて、去年の11月に校長先生はいじめについてのお話をしました。

どんなことが「いじめ」になるのか、覚えていますか。いじめとは、次のようなことで現れます。

- ・暴力(たたかれる 蹴られるなど)
- ・悪口を言われる、冷やかしゃからかいをされる、脅し文句、嫌なことを言われる
- ・仲間はずし、無視をされる
- ・ものを隠されたり、捨てられたり、壊されたりする
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをさせられる
- ・遊ぶふりをして、ぶつかってくる
- ・ふざけの中で生まれること



これらのことをされて、「悲しい、苦しい、こわい」という気持ちになり、心や体がつらくなったら「いじめ」になります。たとえ1回でも、1人でも、「いじめているつもりはなかった。」と言っても、いじめになるのです。

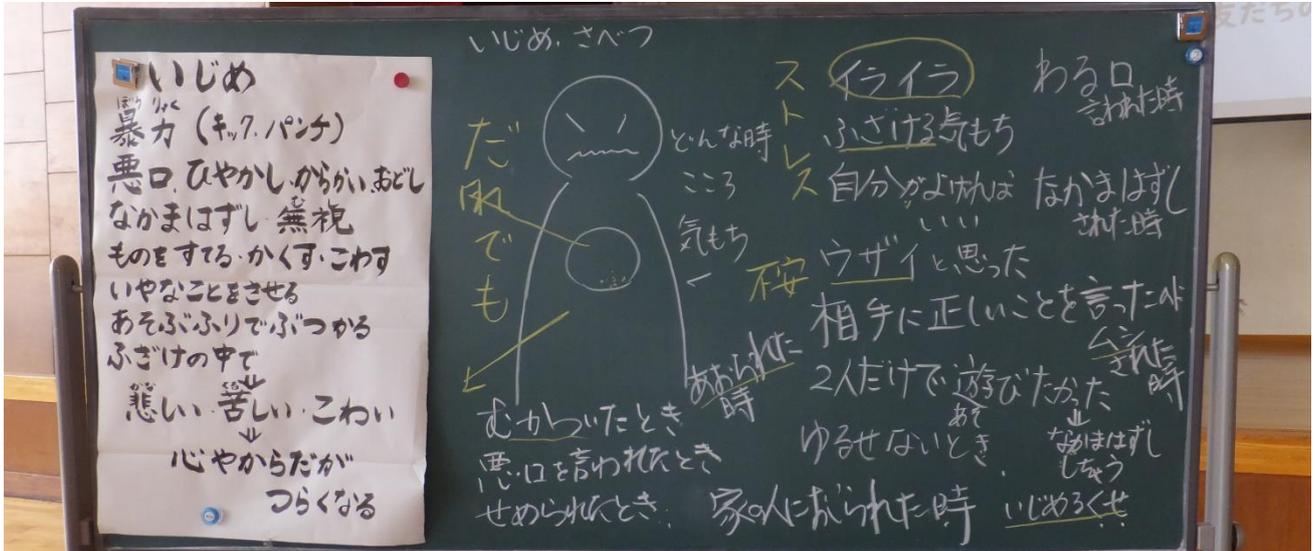
また、差別とは、あの人は、〇〇だから、とほかの人とはちがうあつかいをすることです。たとえば 男だから女だから 外国人だから はだの色がちがうから しょうがいがあるから コロナウイルスにかかった人だから などということです。

いじめや差別をした子は、大変です。休み時間も、学校が終わってから何回も、いろいろな先生にお話を聞かれます。おうちの方にもお知らせして、学校に来てもらいます。先生たちは書類もたくさん作ります。いじめても、あやまればいいんでしょ、なんてとんでもありません。「ごめんね。」ですむことではありません。

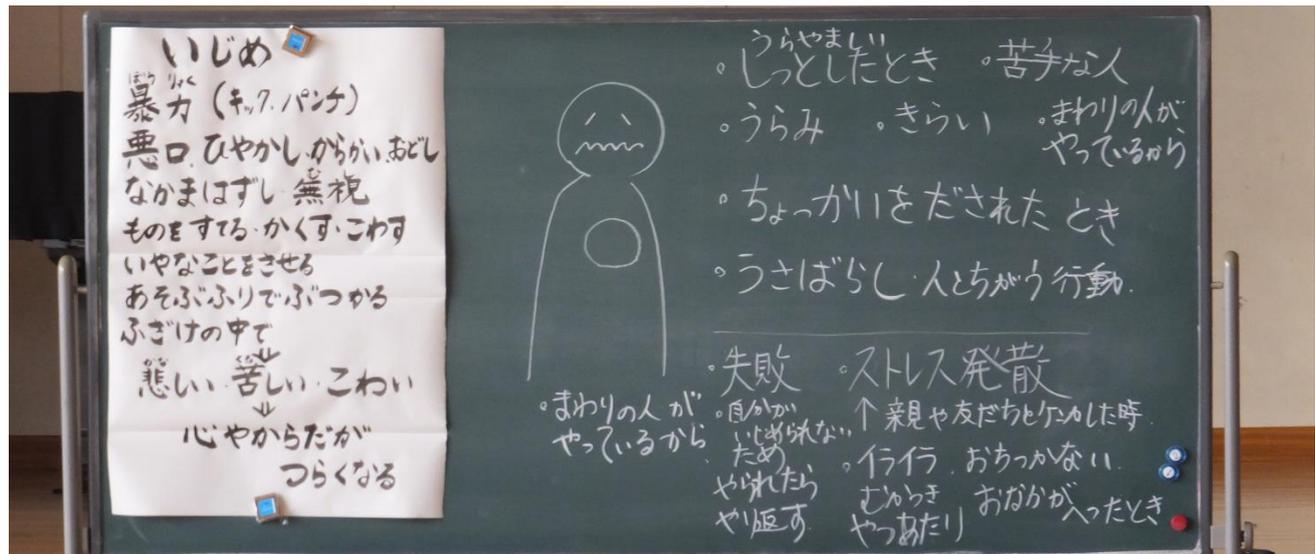
しかし、いじめや差別を受けた方の人は、もっと大変です。本当につらい思いをして苦しんでいます。心がずたずたに傷つき、人と会うのがこわくなり、学校に来られなく

なったり、生きていくのがいやになったりすることさえあるのです。

人をそんな目にあわせるいじめはしてはいけないことは、わかりますね。では、どうして、私たち人間は悪いとわかっているのに、人をいじめたり、差別をしたりしてしまうのでしょうか。どんな時に、どんな気持ちになったときに、このようなことをしてしまうのでしょうか。近くの人と話し合ってみてください。



授業の黒板上が3・4年 下が5・6年 授業前半部分 右側が子どもたちから出た意見



このような気持ちになったり、いらいらしたり、もやもやしたり、不安になったりすることは、だれにでもあることです。先生にもあります。担任の先生にもあります。心の中にこのようなマイナスの気持ちが広がって苦しくなること、ストレスがたまって、発散したくなることは悪いことではないのです。思っていることや感じたこと、気持ちはどんなことであっても、心の中にあるだけでは、悪くありません。



しかし、それを、言葉として出したり、このような行動をしてしまったりして、人を傷つけてしまうと、悪いことになるのです。いじめや差別につながってしまうかもしれません。

どうしたら、この心の中のもやもや、いやだと思ふ気持ち、不安やストレスをいじめにしないような自分になれるのか、これからもずっと考えていってください。

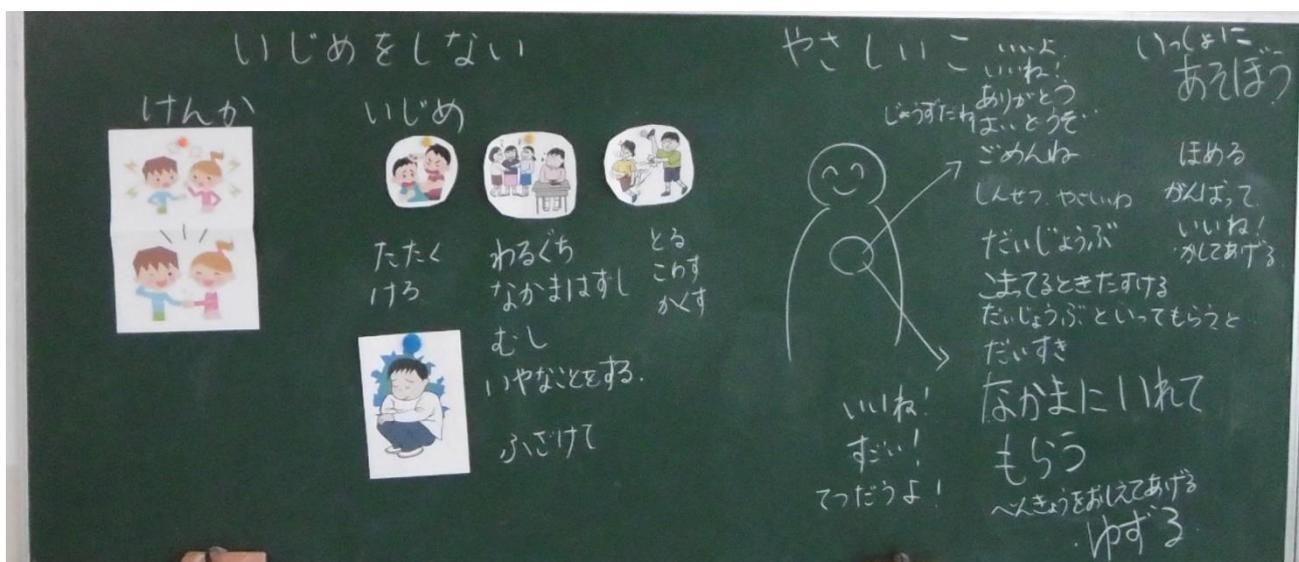
さて、人は、この世に生まれたら、人として大切にされ、人間らしく幸せに生きていく権利があります。男だから、女だから、といて差別されることはありません。障害を持っているから、といて差別されることはありません。3年生も、4年生も、菊組も、桃組も、みんな大切にされる人たちです。

みんなの心の中には、だれにでも人を大切にするやさしさがあります。やさしさは、どんどん言葉や行動に出してください。

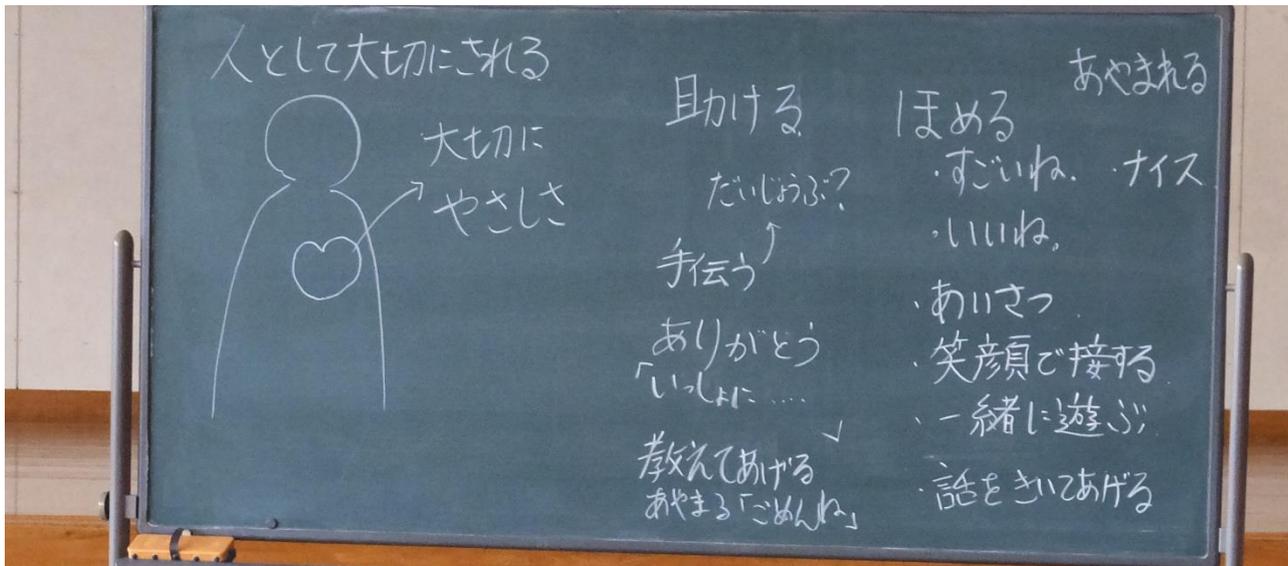
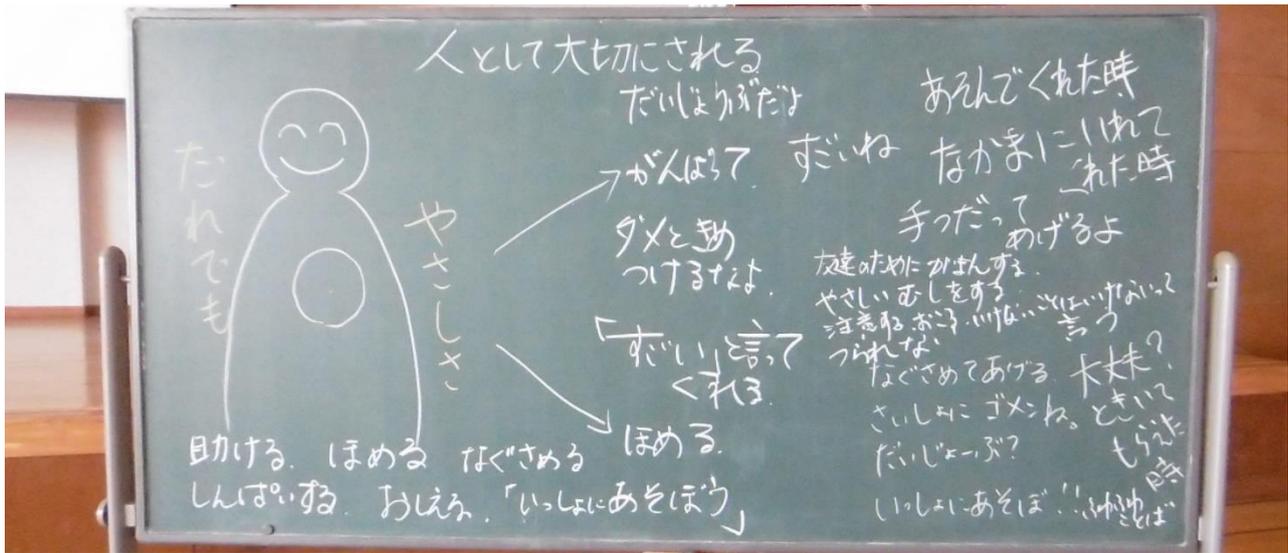


では、どんな言葉やどんな行動をすれば、やさしさを外に出して、人に伝えることができると思いますか。近くの人と話し合ってみましょう。

1・2年生授業の黒板 授業全体 右側が子どもたちから出た意見



授業の後半部分の黒板 上が3・4年生 下が5・6年生 右側が子どもたちから出た意見



こんなふうに、みんなが持っているやさしさを言葉や行動として外に出してください。
朝のあいさつの様子です。こんなふうに手を振り返してくれると、うれしくなります。
また、階段の上に残って、次の人にあいさつをつないでいる人も増えてきました。あいさつは、やさしさを外に出す第一歩です。



人の心の中はわかりません。その中にあるものをどう出していくか、出さないようにするかで、いじめや差別をなくし、みんなが笑顔で暮らしていくことができるのかもしれない。